地上写真・斜め写真の撮影に関して

現行バージョンの図化名人では、航空写真撮影仕様のため、図 1 に示すように空中から真下に向かっての撮影の場合においてしか、図化名人は対応していません(標定解析バンドル調整計算における外部標定要素(カメラの撮影位置 Xo,Yo,Zo,及びカメラの傾き , ,)の初期値が正しく設定できないため)。



(任意座標でも可)

図1 航空写真での撮影形態

<u>地上写真の場合、</u>

そのため、地上写真撮影の場合には、図 2 で示すような座標系を設定し、その座標系上で基準点 ()を設定することになります。



図2 地上撮影での座標系

したがって、図化データやオルソフォトは図2で示す XY 座標面を基準に作成されます。

斜め写真撮影の場合、

斜め写真撮影を行った場合、現行の図化名人ではそのまま利用することができません。そのため、 バンドル調整計算の外部標定要素(,,,,,Xo,Yo,Zo)の初期値を手動で次のように設定しなければ なりません。以下に、その設定方法について説明します。

各撮影点(カメラ)位置の計測対象座標系との位置関係、及び傾き関係を、図3で示す計測対象 を撮影した場合を想定して、設定方法を説明する。



図3 図化名人外部標定要素パラメータの求め方

このような斜め写真撮影が行われた場合は、プロジェクト管理では撮影位置を取りあえず配置を行った後、作成されるプロジェクトフォルダ内の「Parameter」フォルダにある「PhotoInfo.txt」を開き、「PHOTO_INITIAL」項の数値を、図3で示す撮影位置・方向より求めた外部標定要素の数値に置き換えます。



これで、標定解析でのバンドル標定が実施できることになります。